

令和5年度スポーツ庁委託事業

障がい者スポーツ推進プロジェクト

(特別支援学校等における運動部活動の地域連携・地域移行支援事業)

成果報告書



令和6年3月
徳島県

本報告書は、スポーツ庁の委託事業として、徳島県が実施した令和5年度「障害者スポーツ推進プロジェクト(特別支援学校等における運動部活動の地域連携・地域移行支援事業)」の成果を取りまとめたものです。

従って、本報告書の複製、転載、引用等にはスポーツ庁の承認手続きが必要です。

はじめに

本県におきましては、平成28年4月、障がい者が自立して社会参加し、自己の個性や能力を発揮することができる社会の実現を目指す「障がいのある人もない人も暮らしやすい徳島づくり条例」を施行し、その理念を実現するべく令和6年3月には、新たな「徳島県障がい者施策基本計画」を策定し、「障がい者スポーツの振興」に一層力を注いでいるところです。また、令和2年度には、本県がめざすダイバーシティ社会の理念と方向性を示す「ダイバーシティとくしま推進方針」を策定するとともに、誰もが取り組める障がい者スポーツを通じた交流促進と活躍推進を積極的に図るなど、多様な人々が共生し、交流し、活躍する「ダイバーシティとくしま」の実現に向けた取組みを進めているところです。

「東京2020パラリンピック」開催を契機に、障がい者スポーツへの関心が高まる中、本県では、平成27年度より「地域における障害者スポーツ普及促進事業」、平成30年度からは「地域の課題に対応した障害者スポーツの実施環境の整備事業」に取り組み、生涯スポーツ実施に向けた環境整備や、障がい者が身近な地域で日常的にスポーツ活動に取り組むことができる環境づくりに向けた「実践研究」事業を実施して参りました。また、障がい者スポーツの裾野の拡大、競技力の向上、相互理解の視点から、スポーツ部局、教育委員会、有識者、障がい者スポーツ関係団体等との「連携・協働体制」の構築を図ってきました。

本事業は、上記事業の「実践研究」の成果を発展させ、特別支援学校等の運動部活動の地域連携・地域移行に向けた課題解決を目的に実施したものです。各団体が持つノウハウを活用しながら、特別支援学校の在校生や卒業生が、生涯にわたり継続してスポーツを実施できる機会を確保するため、課題の分析や課題解決のための方策を検討し、実施した事業から見えてきた新たな課題を関係団体と共有しました。

本プログラムは、令和5年度に実施した成果を検証し作成したものです。多くの方々にご覧いただき、忌憚のない御意見、御助言を賜れば幸いです。今後更に、これまでの成果を発展させるとともに、課題解決の検証を進め、児童生徒本人の希望に合わせて活動を継続できる地域連携・移行モデルの構築を図っていきたいと考えております。

最後になりますが、本事業の実施に当たり、御指導、御協力を頂いた、関係機関の方々や学校等の皆様方に、厚くお礼申し上げます。

令和6年3月

目 次

I 障がい者スポーツ推進プロジェクト

1 事業趣旨	1
2 県立特別支援学校の概況	2
3 県立特別支援学校の部活動の概況	3
4 事業効果	3
5 今後の課題	3

II 実行委員会

1 会議の目的	4
2 検討事項	4
3 委員名簿	4
4 検討状況	5

III 実施事業

1 特別支援学校卒業後を見据えた継続的な運動・スポーツ活動参加促進事業	
(1) 目的	7
(2) 取組内容	7
特別支援学校での指導者派遣事業（各学校への指導者派遣）	7
特別支援学校での指導者派遣事業（地域施設の利用及び体験格差解消のための取組）	20
2 特別支援学校運動部活動等の地域連携推進事業	
(1) 目的	22
(2) 取組内容	22
特別支援学校と地域の障がい者スポーツクラブ等の交流機会創出	22
「総合型地域スポーツクラブ」との連携	27
障がい者施設のトレーニングスペースを活用した練習拠点の充実	28
3 サッカー競技を核とした運動部活動地域移行モデル創出事業	
(1) 目的	30
(2) 取組内容	30
特別支援学校サッカー部サテライト事業	30
ピアサポートサッカー交流事業	33

I 障がい者スポーツ推進 プロジェクト

I 障がい者スポーツ推進プロジェクト

1 事業趣旨

本県では、平成27年度より「地域における障害者スポーツ普及促進事業」、平成30年度からは「地域の課題に対応した障害者スポーツの実施環境の整備事業」に取り組み、行政部局に加え、県内スポーツ関係者、障がい福祉関係者等が連携し、障がい者スポーツの普及促進に係る関係者間のネットワークづくりや、生涯スポーツ実施に向けた環境整備を進めてきた。

本事業では、前身事業で構築してきたネットワークや成果を活かしながら、特別支援学校等の運動部活動の地域連携・地域移行に向け、これまでの取組から見えてきた課題の解決に取り組む。解決を目指す課題は以下のとおりである。

- (1) 特別支援学校における専門的な指導者の不足
- (2) 特別支援学校卒業後のスポーツ実施率の低下
- (3) 地域の障がい者スポーツ競技団体の高齢化・人数の減少
- (4) 障がい者や特別支援学校運動部活動の受入れが可能な総合型地域スポーツクラブの開拓

上記(1)～(4)の課題解決に向け、特別支援学校におけるスポーツ活動への外部指導者の派遣や、地域の障がい者スポーツ競技団体や総合型地域スポーツクラブと特別支援学校運動部活動等との連携の促進、サッカー競技を核とした特別支援学校運動部活動の地域移行のモデル創出を中心とした事業を展開する。

具体的には、

- (1) 県教育委員会と連携した、
「特別支援学校卒業後を見据えた継続的な運動・スポーツ活動参加促進事業」
- (2) 徳島県障がい者スポーツ協会と連携した、
「特別支援学校運動部活動等の地域連携推進事業」
- (3) 一般社団法人徳島県サッカー協会と連携した、
「サッカー競技を核とした運動部活動地域移行モデル創出事業」

を実施したいと考えている。

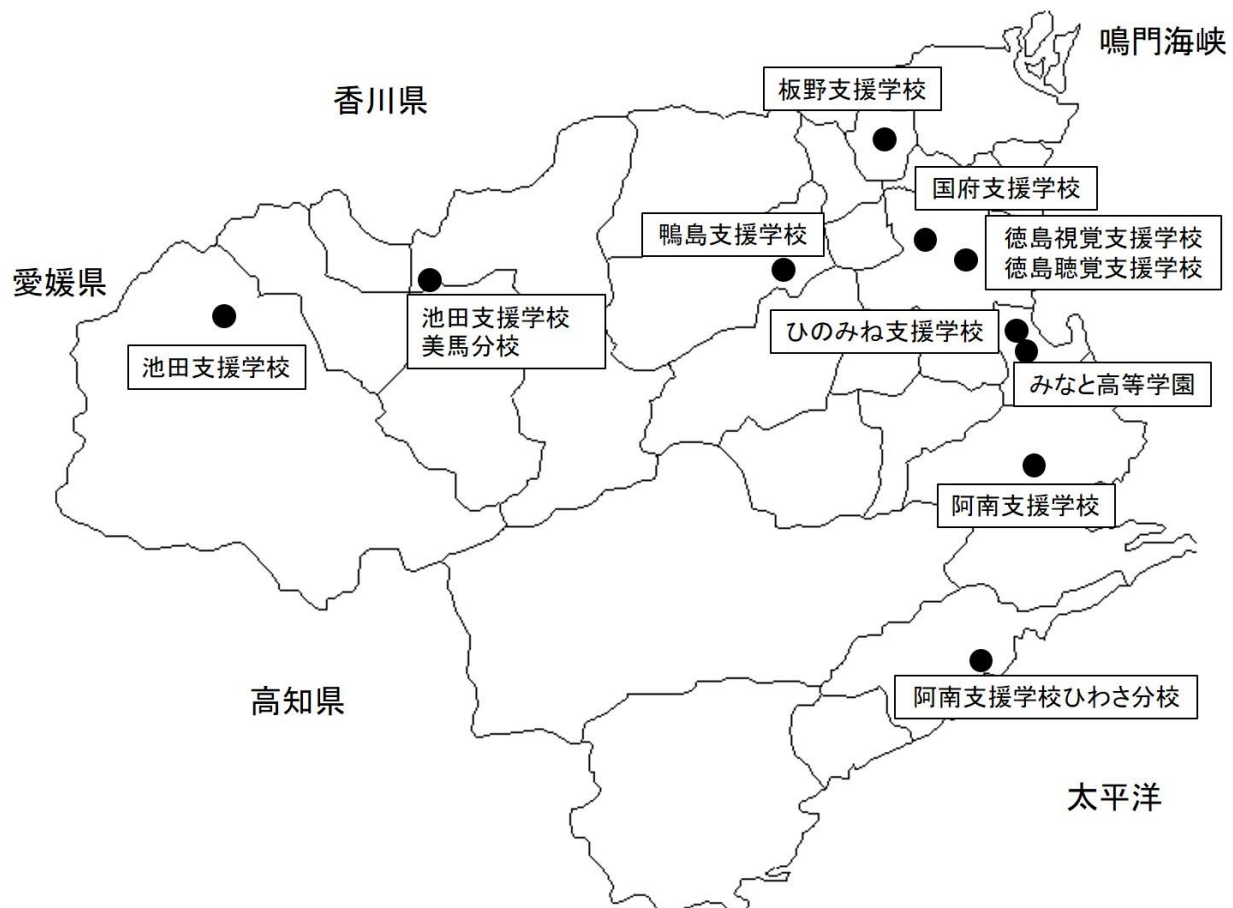
上記(1)～(3)の事業実施を通して、(1)の事業で対象者となった障がいのある児童・生徒を、個人の希望や特性により(2)、(3)の事業に繋げ、障がいのある児童・生徒がそれぞれの特性や希望に合ったスポーツ活動を選択することができ、身近な地域での実施環境の整備により継続的なスポーツ実施に繋げ、生涯スポーツの推進を図るとともに、運動部活動の地域連携・地域移行の実施体制を構築する。

2 県立特別支援学校の概況

徳島県内には、県立の特別支援学校が 11 校設置されており、概要は次のとおりである。

(R5.5.1 現在)

	学校名	所在地	学部 生徒数	障がい種
1	徳島視覚支援学校	徳島市南二軒屋町	幼小中高 20 名	視覚障がい
2	徳島聴覚支援学校	徳島市南二軒屋町	幼小中高 37 名	聴覚障がい
3	板野支援学校	板野郡板野町	小中高 214 名	肢体不自由、病弱、知的障がい
4	国府支援学校	徳島市国府町	小中高 283 名	知的障がい
5	鴨島支援学校	吉野川市鴨島町	小中高 17 名	肢体不自由、病弱
6	ひのみね支援学校	小松島市中田町	小中高 51 名	肢体不自由
7	阿南支援学校	阿南市上大野町	小中高 133 名	知的障がい
8	阿南支援学校ひわさ分校	海部郡美波町	小中高 17 名	知的障がい
9	池田支援学校	三好市池田町	小中高 76 名	知的障がい
10	池田支援学校美馬分校	美馬市美馬町	高 28 名	知的障がい
11	みなと高等学園	小松島市中田町	高 82 名	知的障がい、病弱



3 県立特別支援学校の部活動の概況

県立特別支援学校の部活動の概要は次のとおりである。

(R5.5.1現在)

学校名	種類	活動内容
A	部活動	卓球、スポーツ、点字、芸術（音楽、美術）、JRC、コンピュータ、手芸
B	部活動	卓球、陸上、茶道
C	部活動	陸上、バスケットボール、サッカー、ダンス、美術作品制作
D	部活動	スポーツ、日本太鼓、ふれあいボランティア（人権）部
E	放課後活動	さわやかクラブ（人権）、エシカル、園芸クラブ
F	放課後活動	運動部、文化部
G	放課後活動	再活動に向けて検討中
H	部活動	文化（制作等）、運動部
I	部活動	ハンドメイド、パソコン、音楽、アート、環境園芸、球技、卓球、陸上

4 事業効果

- ・競技団体の指導者やプロチームと顔の見える関係性を構築することができた。
また、外部の指導者からの専門的な指導や、他校の生徒と共に参加できる練習機会を通じ、生徒達のスポーツ活動に対するモチベーションや競技力の向上が見られ、新たな大会に向けたステップアップを図ることができている。
- ・総合型地域スポーツクラブにおける障がい児の受入れについて、実施回数を重ねるごとにスムーズにコミュニケーションを図ることができており、放課後や休日に応い体育施設でスポーツを楽しむことができる貴重な機会となった。また、放課後等デイサービス等の事業所単位で参加いただくことで、保護者の送迎の負担を無くし、参加に対するハードルを下げることもできた。
- ・団体競技（サッカー競技）での定期的なスポーツ活動を通じ、技術面のみならず、生活面においても生徒達の成長が見られた。
- ・ソーシャルフットボールチームの選手が特別支援学校の生徒への指導的役割を担うことで、精神障がい者選手の励みにも繋がっている。

5 今後の課題

- ・本県は公共交通機関での移動が難しい地域が多く、スポーツ実施場所までの移動手段の確保について、参加者からの費用負担を含め検討が必要である。
- ・総合型地域スポーツクラブでのプログラム実施について、参加には会費が必要であり、かつ、定期的な参加が見込めない場合は継続的な実施は難しい。
- ・一般の競技団体には障がい者への指導経験のある指導者が少ないため、公認パラスポーツ指導員資格の取得を促していく必要がある。

Ⅱ 実行委員会

Ⅱ 実行委員会

1 会議の目的

特別支援学校等の運動部活動の地域連携・地域移行に向け、特別支援学校の児童生徒がスポーツ活動に継続して親しむことができる機会を確保し、児童生徒本人の希望に合わせて活動を継続できる地域連携・移行モデルを構築する方策について検討する。

2 検討事項

- ・教育関係者、スポーツ関係者、障がい福祉関係者等が、各地域で連携、協働し、特別支援学校等の運動部活動の地域連携・地域移行についての方策を検討することができる体制の強化
- ・実施事業の進行管理、事業成果の検証等を行い、障がい者スポーツ推進プロジェクトの成果報告書のまとめ

3 委員名簿（敬称略）

区 分	所 属・職 名	氏 名	備考
学 識 経験者	徳島大学大学院 教授	佐藤 充宏	委員長
	徳島文理大学 教授	森泉 摩州子	
当事者 団 体	徳島県身体障害者連合会 事務局長	先田 功	
	徳島県手をつなぐ育成会 参与	高田 和昌	
ス ポー ツ 関 係	徳島県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会 会長	新久保 眞度	
	徳島県障がい者スポーツ協会 事務局長	相原 佳子	副委員長
競 技 団 体	徳島県サッカー協会 副会長	村岡 英治	
	徳島県ボッチャ協会 副会長	吉野 哲一	
	徳島県バスケットボール協会 障がい者バスケットボール委員長	遠藤 恭弘	
行 政	徳島県未来創生文化部ダイバーシティ推進課 課長	山崎 弘貴	
	徳島県未来創生文化部スポーツ振興課 課長	青木 秀夫	
	徳島県教育委員会特別支援教育課 課長	田中 清章	
	徳島県教育委員会体育健康安全課 課長	鳴川 幸恵	

4 検討状況

(1) 第1回実行委員会

- ア 日時 令和5年8月1日(火)
- イ 場所 徳島県庁 403会議室
- ウ 議事
- ・委員長及び副委員長の選任について
 - ・令和5年度「障がい者スポーツ推進プロジェクト」について
 - ・その他
- エ 出席委員 13名
- オ 委員からの主な意見等
- ・特別支援学校への外部指導者派遣を通して、対象競技のクラブ化、組織化に繋がっていくと良いのではないかと。
 - ・地域の方や地域のクラブとの交流を通して、障がいのある児童生徒がより自己肯定感を高めることができると思うので、積極的に実施いただければ。
 - ・学校卒業後も継続してスポーツを実施できるよう、地域の障がい者スポーツ団体に繋げていけるような取組を、学校と連携して実施していきたい。

(2) 第2回実行委員会

- ア 日時 令和5年12月22日(金)
- イ 場所 徳島県庁 804会議室
- ウ 議事
- ・各事業の中間報告について
 - ・その他
- エ 出席委員 11名
- オ 委員からの主な意見等
- ・ボッチャの競技力が非常に向上しており、本事業で指導した生徒達を、今後全国大会等に繋げていけるよう検討中。
 - ・外部講師やプロの方に指導いただくことで、生徒の満足度も高まり、モチベーション向上に繋がっている。
 - ・オンラインの活用により、移動が困難な重度障がいの生徒も他校の生徒と共に練習に参加することができたことは、大変有意義である。
 - ・総合型地域スポーツクラブとの連携事業について、放課後等デイサービス等の事業所単位で参加いただいたことは良い取組かと思う。既存の団体の活動の中で実施いただくことで、参加のハードルが下がる。
 - ・特別支援学校の生徒は通学等で様々な制約があり、部活動が思うように実施できていない実状がある中、今回のサッカーチームの活動は様々な地域での参加機会があり、卒業後も継続して参加できるチームとしていただけたことは大変ありがたい。

(3) 第3回実行委員会

- ア 日時 令和6年3月6日(水)
- イ 場所 徳島県庁 1101会議室
- ウ 議事
- ・令和5年度成果報告書(案)について
 - ・令和6年度実施計画(案)について
- エ 出席委員 12名
- オ 委員からの主な意見等

- ・指導者派遣での練習の成果を合同練習の場で発揮する、という流れにより、生徒達が意欲的に練習に取り組む様子が見られた。今後、こうした取組を卒業後にも繋げていくことができれば。
- ・外部指導者との関わりは、親や先生以外の様々な大人の方と交流することで社会性を育んでいくという意味でも非常に有効。
- ・外部指導者としてプロチームの方に関わっていただくことは、特別支援学校の生徒がどのような思いでスポーツに取り組んでいるのかを感じていただく機会となり、指導者側にとっても刺激になったかと思う。
- ・特別支援学校サッカー部の事業は手厚い形でプログラムを実施しており、非常に評価できる。今後もこの事業を続けていくために、資金面について検討が必要。練習日程や練習方法の工夫のほか、企業からの協賛金を活用していくことも考えられる。
- ・子どもの減少により、スポーツの分野でも地域格差が生じている。格差是正のためにどのような支援が提供できるのかを検討し、支援の枠作りを進めていくことが必要。



Ⅲ 実施事業

特別支援学校卒業後を見据えた継続的な運動・スポーツ活動参加促進事業

1 目的

本県では、これまでスポーツ庁からの委託事業により、特別支援学校でのスポーツや児童生徒の体づくりの実施、それに伴う指導者確保の課題について、様々なスポーツに活用できるコンディショニング等の指導をとおして、学校のニーズに応じた「スポーツスキルの向上」や「教員の指導力向上」の観点から取り組んできたところである。

これらを踏まえ、今年度も継続してトレーナー派遣を活用し、様々なスポーツに対応できる体づくり等の指導を行うことにより、特別支援学校の児童生徒の基礎的な体力づくりや教員の指導力向上を目指すとともに、スポーツ関係機関等との連携を図り、特別支援学校の児童生徒のスポーツ活動による地域交流をさらに促進していく。

2 取組内容

○特別支援学校での指導者派遣事業(各学校への指導者派遣)

(1)実施内容

「徳島県障がい者スポーツ協会」や「徳島県トレーナー協会」等、関係機関とのネットワークを活かし、特別支援学校に障がい者スポーツ指導員の資格を有するトレーナーを派遣し、いろいろなスポーツに対応できる体づくりの活動をとおして、児童生徒の障がい特性に応じたスポーツスキルを向上させ、スポーツを楽しむことの意識付けや、継続的なスポーツ活動の実施へとつなげる。

また、特別支援学校においてスポーツを指導する教員についても、専門家による指導方法を体得することで、児童生徒に対する日頃のスポーツ指導のスキル向上に活かす。

(2)実施計画

実施校	内容	指導者	派遣回数
徳島聴覚支援学校	卓球	藤浦 哲夫	7回
国府支援学校	サッカー	尾形 裕	7回
みなと高等学園	陸上	永井 明人	4回
阿南支援学校	体幹トレーニング	吉成 侑弥	4回
池田支援学校	体幹トレーニング	遠藤 恭弘	3回

(3)各学校の取組

1)徳島聴覚支援学校

◆学校のプロフィール

徳島聴覚支援学校は徳島市内に位置し、県内唯一の聴覚障がい教育を専門的に行う特別支援学校である。幼稚部、小学部、中学部、高等部(普通科、産業情報科、理容科、高等部専攻科理容科)が設置されており、令和5年度は全校で37名が在籍している。

卓球部は中学部と高等部の男女が合同で活動しており、中学部3年生と高等部3年生が7月に引退した11月13日現在は生徒5名が所属している。四国地区や全国の聴覚特別支援学校が集う卓球大会に向けて週4日の練習を行っている。なお、高等部には11月上旬の第60回全国聾学校卓球大会愛知大会に、四国代表として出場した生徒がいる。

◆実施計画

- | | |
|---------|--------------------------------------|
| 1. 対象学部 | 中学部・高等部(卓球部) |
| 2. 対象生徒 | 聴覚に障がいのある生徒。卓球を始めて1か月～3年以上まで様々な経験年数。 |

3. 指導のポイント 視覚的にわかりやすく示す
 4. 場所 徳島聴覚支援学校 体育館
 5. 講師 徳島県卓球協会副理事長 藤浦 哲夫 氏

◆取組内容

実施日	実施内容(活動内容)	対象
①7月7日(金) 16:00~17:00	① サーブ練習 公式のルールに則ったサーブの出し方の確認を行い、回転が多くて球速の速いサーブを心がけるように指導をいただいた。藤浦氏から繰り出されるサーブを実際に生徒がレシーブをし、強いサーブとはどんなものを体感することができた。藤浦氏から伝授していただいたバック面を使うサーブに挑戦する生徒もいた。 	四国大会前 中学部3名 高等部7名
②7月19日(水) 16:00~17:00		
③7月20日(木) 14:00~17:00		
(全国大会前練習)		
④10月3日(火) 16:00~17:00		
⑤10月10日(火) 16:00~17:00	② 基本練習 球を打つタイミング、面の角度、ラケットの振り方を藤浦氏に確認いただきながら、ラリー練習を行った。打った後に返ってきた球に備える意識や待ち方の重要性も説明いただいた。 	全国大会後 中学部2名 高等部3名
	③ 実践練習 大会を見据えて、試合形式の練習を行った。サーブを出すときにもラリー中にもコートを広く使って、相手に打ちやすい球を送らないように注意することを指導いただいた。	

◆活動の成果

令和5年度の四国地区聾学校卓球大会に出場した生徒は、藤浦氏から指導をいただいたサーブ技術や3球目攻撃につなげる動き方を駆使し、高等部男女ともに個人戦の優勝を収めることができた。全国聾学校卓球大会に出場した生徒の中には、大会1か月前に藤浦氏から教わったバック面で繰り出す回転が強く速いサーブを日々練習し、大会でそれを活用してセットカウントを取ることができた者もいた。以前は試合に敗れた際にその原因を追求しようとしなかった生徒も、今大会では「相手のサーブの回転を見分ける力が足りなかった。途中で相手にそのことを見破られてしまった。」と自分なりに分析できるようになり、今後の練習の目標を立てることもできた。

きた。この生徒の変化も、藤浦氏による試合の運び方の練習によって、生徒自身がどのような流れで点数を重ねていくかの理論を理解できてきたからだ考える。

◆生徒の感想

生徒 A「声だけでなく、やり方の実演があって、説明が分かりやすかったです。」

生徒 B「バックの打ち方と直したらよいポイントを分かりやすく教えていただきました。また来年も教えていただきたいです。」

生徒 C「自分の悪いところをどんどん指摘していただけたので、自分の適したプレーが見つかりやすかったです。格上の講師の方と試合練習ができて、よい経験にもなりました。これからも来ていただきたいです。」

◆今後の課題

試合相手の弱点を見つけ、さらにその弱点をつくための技術の足りなさが伺えた。また、大会で初めて試合する相手のサーブがチームメイトと同じ振り方であっても、その回転量や方向は異なるため同じレシーブの方法では通用しないことも見て取れた。相手の弱点をつくために必要などの方向にも打ち分ける技術や、あらゆる回転量や回転方向のサーブに対応する力を身につけていくことが今後の課題であり、次年度も専門家の指導を受けることができれば生徒のスキル向上につながると考える。

2)国府支援学校

◆学校のプロフィール

国府支援学校は、徳島県内で最初に設置された知的障がい児が学ぶ特別支援学校である。児童生徒一人ひとりの人権と多様性を尊重し、個に応じた自立と社会参加の実現を目指している。また、令和5年度の重点目標として「児童生徒の可能性を引き出す授業・教育活動」の中で「障がい者文化スポーツの充実に向けた教育活動の推進」を掲げている。

学校教育目標を「児童生徒の可能性を最大限に伸ばし、自ら生きる力を養い、社会的に自立できる心身ともに豊かな人間を育成する」として、4つの「生きる力」を掲げている。小学部では、「健やかな体にする力」として「運動や食事を楽しみ、規則正しい生活ができるようにする」を学部目標としている。今回の対象児童は、小学部高学年(5、6年生)体育 A グループ18名である。

◆実施計画

- | | |
|------------|--|
| 1. 対象学部 | 小学部 |
| 2. 対象生徒 | 高学年 18 人 |
| 3. 対象概要 | 体を動かすことが好きな児童が多い。体の使い方が不器用だったり、体幹が弱かったりする児童も多い。多数は一斉指導を理解できるが、傍での細かい支援が必要な児童もいる。 |
| 4. 指導のポイント | 視覚的な提示が有効。要所でのポイント説明や、身体的なモデル提示があれば理解しやすい。ホイッスルでの指示を学習中。 |
| 5. 場所 | 国府支援学校 体育館 |
| 6. 講師 | 株式会社トクフジ 尾形 裕 氏 |

◆取組内容

実施時期	活動内容	対象
①9月13日(水) 10:30~11:10	① めあての確認 ・初めての活動なので、サッカーについてのイメージ等を講師から児童に質問をしてくださった。サッカーは、体のどの部分を使うか等教えて頂いた。	小学部高学年 (5、6年生) 体育 A グループ (18名)



	② ウォーミングアップ ・体育館内を自由に走り回る、ホイッスルを聞いて止まる、走りながら方向転換をする、前・横・後ろにスキップをする活動を行った。 ③ ボール運動 ・ボールを上に向けて受ける、落ちてくるまでに手を叩く活動を行った。児童によってボールを高く投げて多く手を叩いたり、歩きながら上に投げたりと難易度を変え、個々に指導してくださった。 ・体育館全体を使い、自由にドリブルを行った。 ・直線上に置かれた同色のコーンに向かい、前にドリブルを行った。ドリブルをしながら、まっすぐ進むことが難しい児童には、講師が並走して、まっすぐ進むことができるようにボールを足元に転がす等の指導をしてくださった。 ④ 試合 ・ランダムにゼッケンを配布し、チーム分けを行い、自分たちがどのゴールを目指せばよいのかを最初に説明してくださった。その後、ボールを2個使い5分程度の試合を行った。	
②10月18日(水) 10:30~11:10	①めあての確認 ・本時の活動内容の確認、目標の共有をした。 ②ウォーミングアップ ・ボールを持って走ったり、走りながらボールを上に向けて受けたりした。 ・体育館全体を使い、ドリブルを行った。 ③ドリブル練習 ・スタートとゴールの場所に列ごとに異なる色のコーンを設置した。最初は、ボールを持ってスタートからゴールまで走った。その後、スタートからゴールまでドリブルを行った。1回目のドリブル終了後、「小さくボールを蹴ることで、ボールをコントロールしやすくなる」と児童全体に助言をいただいた。 ④ 試合 ・ビブスで色分けした2グループに分かれ、ボールを複数個使用し、試合をした。相手のボールを取りに行ったり、ゴールが近くなると力強くシュートをしたりする様子も見られた。講師にボールを取られないよう工夫をしてボールを扱う様子も見られた。1回目に比べて、どのゴールを目指せばよいかということの理解や、ドリブルで進むことの意識ができているようだった。	小学部高学年 (5、6年生) 体育Aグループ (18名)

③10月25日(水) 10:30~11:10	①めあての確認 ・本時の活動内容の確認、目標の共有をした。 ②ウォーミングアップ ・体育館全体を使い、前に走ったり後ろに走ったりした。その後、スキップやその場でジャンプ等の動きも行った。 ③ボール運動 ・体育館を大きく使って、ドリブルをした。ドリブルの際には、ボールを体から離さないようにゆっくり蹴ったり、徐々に走りながら教員に取られないようにドリブルをしたりする等、ステップアップした活動を取り入れた。友だちや講師(先生)を見ながら主体的にやってみようとする児童が増えた。 ④試合 ・2グループに分かれ、ボールを複数個使用してゲームをした。児童によっては、シュートをしたり、ゴールを守ろうとしたりする動きが見られた。また、多くの児童が時間いっぱい走って取り組むことができていた。シュートが成功すると「やったあ!」「すごい!」と互いに称賛し合う姿も見られた。シュートが外れた時も「次頑張ろう」等励ましの言葉をかける児童も見られた。	小学部高学年 (5、6年生) 体育Aグループ (18名)
④11月8日(水) 10:30~11:10	①めあての確認 ・本時の活動内容の確認、目標の共有をした。 ②ウォーミングアップ ・体育館全体を使い、前に走ったり後ろに走ったりした。その後、スキップやその場でジャンプ等の動きも行った。 ③ボール運動 ・カラーコーンをランダムに10本立て、ドリブルをしたり、ボールを蹴ったりしてカラーコーンにボールをあてる活動を行った。 ・カラーコーンにボールが当たると、得点が入るというゲームを行った。	小学部高学年 (5、6年生) 体育Aグループ (18名)

	⑤ 試合 ・2グループに分かれて試合をした。ボールを複数個使用した。前回に比べて、ボールを自ら追いかける児童が増えた。前は、サッカーの試合に入ることが難しかった児童も、友だちの動きを見るような様子が見られた。	
⑤11月29日(水) 10:30~11:10	①めあての確認 ・本時の活動内容の確認、目標の共有をした。 ②ウォーミングアップ ・体育館全体を使い、前に走ったり後ろに走ったりした。その後、スキップやその場でジャンプ等の動きも行った。 ③ボール運動 ・カラーコーンをランダムに13本立て、ドリブルをしたり、ボールを蹴ったりして、カラーコーンにボールをあてる活動を行った。 ・カラーコーンにボールが当たると、得点が入るというゲームを行った。 ・カラーコーンを4本×4列を縦に並べ、ジグザグに行うドリブル練習を行った。   ④試合 ・2グループに分かれてゲームをした。ボールを複数個使用した。これまで行ってきたコーンを狙って蹴る・ドリブル等の練習の成果も出て、お互いにパスをしたり、自分でドリブルしたりする児童が増えた。また、これまで参加が難しかった児童の近くにボールを置くと、足を出してボールを蹴る姿も見られた。	小学部高学年 (5、6年) 体育Aグループ (18名)
⑥12月6日(水) 10:30~11:10	①めあての確認 ・本時の活動内容の確認、目標の共有をした。 ②ウォーミングアップ ・体育館全体を使い、ドリブルを自由に行った。 ③試合 ・児童の実態に応じてA、B、C、Dチームに分けて試合を行った。 ・AチームとBチームの対戦では、両チームともオフェンス時には、相手ゴール近くまでドリブルをしてシュートをしていた。 	小学部高学年 (5、6年) 体育Aグループ (18名)

	ディフェンス時には、相手の動きを見ながらボールを奪ったり、キーパーの児童が手や足を使ってシュートを止めたりすることができた。 ・CチームとDチームの対戦では、試合が始まる前に講師と一緒にルールの確認を行い、ボール1つで試合を開始した。最初は、ルールの理解が難しく、攻めるゴールを間違えることがあったが、講師(先生)が攻めるゴールを指差しや言葉かけで支援する事で児童も理解することができた。また、ボールを2つに増やすと、より自らボールを追いかける児童が増えた。	
⑦12月20日(水) 10:30~11:10	①めあての確認 ・本時の活動内容の確認、目標の共有をした。 ②ウォーミングアップ ・体育館全体を使い、ドリブルを自由に行った。 ③試合 ・児童の実態に応じて A、B、C、D チームに分けて試合を行った。 ・AチームとBチームの対戦では、両チームともオフェンス時には、相手ゴール近くまでドリブルをしてシュートをしていった。ディフェンス時には、相手の動きを見ながらボールを奪ったり、キーパーの児童が手や足を使ってシュートを止めたりすることができた。 ・今回は、ボールが足元に来ると、すぐに蹴る児童が多かったが、本時は1度周りを見て相手にパスをしたり、ドリブルをしたりすることができた児童もいた。 ・CチームとDチームの対戦では、試合が始まる前に講師(先生)と一緒にルールの確認を行い、ボール1つで試合を開始した。前回に比べると、ルールをすぐに理解することができた。 ・前回同様に、ボールを2個に増やした。今回は、児童がボールに触れる機会を増やすために、講師が児童の足元にボールをパスするようにした。 ・前回に比べて、児童たちもボールに触れる機会が増え、シュートを決める児童が増えた。	小学部高学年 (5、6年) 体育Aグループ (18名)



◆活動の成果

本グループは、運動能力の幅や、経験の差がある集団である。今まで、ボールを使って体を動かすという経験が少なく、学習場所の不足等もあり思い切り運動する、走るといった活動経験が乏しかった。今回の指導を通して講師の先生と共有した目標が3点ある。1点目は「ルールが理解できているか」、2点目は「チャレンジできているか」3点目は「楽しめているか」である。

ルール理解に関しては、ゲーム理解が難しい児童も、他児の動きを参考に、少しずつステップアップしながら取り組むことによって、場の共有だけでなく、一緒に課題となる動きができるようになってきた。運動能力が比較的高かった児童に関しては、基本的なルールの理解だけでなく、協力してシュートをして高得点を狙う等のルールへの理解の深まりが見られた。

チャレンジ意欲に関しては、活動内容をスモールステップで取り組めたことから、講師の先生や他児の動きを見て、児童全員が個人的なスキルの向上に繋がり、もっと上手になりたい、挑戦したいという意識の変化が見られるようになった。また、運動に消極的だった児童が講師の先生の前に行って上手くできたことを披露する姿も現れ、自信につながった機会であったと感じた。そして、3回の指導を通して、児童全員に毎時間笑顔が見られ、楽しむことができていた、という最大の成果が現れた。「次、尾形コーチがくるのはいつ？」と言葉にする児童も多く、心待ちにしていた様子も見られた。

最後の授業で、「スポーツを一生懸命すると笑顔になれる。コミュニケーションも広がる」という助言を頂いた。地域で活躍されている講師の先生からの言葉は児童に響いていたと思われる。

◆今後の課題

今回の指導では、遊びからゲームまでの一連の学習を通してボール運動の楽しさを学ぶことができた。また、教員自身の学びも深まった。今後は指導頂いた内容に加え、発展したゲームや協力し合える授業内容、他のボール運動の学習にも取り組んでいきたい。

児童をはじめ教員にとっても今回の指導の意義は大きかったと考える。今後も外部講師の授業への参加の継続化を期待する。児童にとっては、地域のスポーツ教室等の利用の促進に繋がることや余暇の充実、社会体育への参加のきっかけになっていくことを願っている。

3)みなと高等学園

◆学校のプロフィール

みなと高等学園は、高等学校発達段階の生徒を対象として、発達障がいのある生徒を対象にして、社会的・職業的自立に向けた教育を行う機関として、平成24年4月に開校した。徳島県内の多方面から、JRやバス、自転車等を使い通学してきている。高等部のみを設置し、商業ビジネス科、情報デザイン科、生産サービス科、流通システム科の4学科を開設し82名の生徒が在籍している。

今回の対象生徒は、陸上部に所属している5名である。全国障害者スポーツ大会への参加を目標に取り組んでおり、今年も3名の生徒が参加した。

◆実施計画

- | | |
|---------|---|
| 1. 対象学部 | 高等部 |
| 2. 対象生徒 | 1年生から3年生。全国障害者スポーツ大会代表の生徒もいる。 |
| 3. 生徒概要 | 運動をすることが好きで、体力のある生徒が多い。2名の生徒は、今年度の全国障害者スポーツ大会の県代表に選ばれている。 |
| 4. 場所 | みなと高等学園 体育館・グラウンド |
| 5. 講師 | 日本パラスポーツ協会認定パラスポーツ指導員 永井 明人 氏 |

◆取組内容

実施時期	実施内容(活動内容)	対象
①9月12日(火) 15:30~16:30	①胸郭のストレッチ ②ジャベリックボール投擲 ・スタンディングスロー ・重心移動 ・ワンステップスロー ③体幹トレーニング	陸上部3名



②9月14日(木) 15:40～16:40	①ストレッチ ②重心移動の練習 ③ジャベボールでアップ ④ジャベスロー投擲 ・スタンディングスロー ・ワンステップスロー ・ツーステップスロー ⑤助走＋クロス練習	陸上部3名
③10月5日(木) 16:00～17:00	①ジャベボールでアップ ②ジャベリックスロー投擲 ・スタンディング(立ち投げ) ・ワンクロス ・助走からのスロー ③ストレッチ	陸上部3名



◆活動の成果

陸上競技において最も大切な姿勢作りでは、地面からの力を受ける体の軸を作ることが速く走るためにとても重要であるということを丁寧に説明していただいた。普段から姿勢が気になっていた生徒も重要性を理解し、自宅でも鏡の前で主体的に姿勢のチェックや姿勢作りを行うようになった。また、体幹トレーニングやスクワットを中心としたトレーニングをサーキット形式に丁寧に指導していただき、フィジカルトレーニングに対する意欲が高まった。体幹トレーニングサーキットは、陸上部で行っている朝練(30分程度)でも曜日を決め習慣的に行い始めた。指導をしていただいた翌日は、どの生徒も筋肉痛になっていたが、爽やかに「筋肉痛が痛いです」と笑顔がうかがえ、達成感と意欲の高まりを感じることができた。

◆生徒の感想

生徒 A「ジャベリックの投げ方のポイントを教えていただいて、前よりうまく投げられるようになった。」

生徒 B「陸上部と聞くと走るイメージだったが、こんなに面白い競技があると知らなかった。頑張って記録を伸ばしていきたいと思った。(この指導直前に入部した生徒)」

生徒 C「全国大会までに永井先生に指導していただける機会が増えたので、たくさんのことも教えてもらえ、話もできるようになってうれしかった。」

◆今後の課題

本校陸上部は、開校時より熱心に活動をしている部活動である。部員も多い時には13名となり、県高校総体や記録会、地域の駅伝大会にも参加し、それぞれが目標を持ち取り組んできた。

さらに、全国障害者スポーツ大会の県代表として参加し、メダルを獲得し、スポーツをする喜びと陸上に対する意欲を高めてきた。コロナ禍をむかえ、スポーツに対する意欲の低下を感じ始め、陸上を頑張りたいと言う生徒も減少してきた。現在は、全国障害者スポーツ大会に出場しメダルを獲得することが最大の目標として取り組んでいるが、意欲や積極性の継続が難しい状況にある。しかし、外部の専門の方が講師として指導してくださったことで意欲の高まりを感じた。コロナ禍で外部へ出てくことが少なく、いろいろな方と関わることで意欲の高まりを感じた。コロナ禍で外部へ出てくことが少なく、いろいろな方と関わることで意欲の高まりを感じた。コロナ禍で外部へ出てくことが少なく、いろいろな方と関わることで意欲の高まりを感じた。

4)阿南支援学校

◆学校のプロフィール

阿南支援学校は、徳島県南の阿南市上大野町と吉井町との境にある阿南市内を一望できる城山の中腹に位置し、近くには「阿南西部公園」も設置され、野鳥の鳴き声が聞こえてくる豊かな自然に囲まれた環境の中にある。

本校は知的障がいのある児童生徒を対象とした特別支援学校であり、令和5年度は小学部47名、中学部40名、高等部46名の計133名が在籍している。小・中学部については、地元の学校への就学志向が見られるが、障がい児への専門的な教育を希望し本校へ入学する者も多い。高等部については、普通科と生活科学科と産業工芸科を設置し、将来の社会(就業)自立・参加への期待も大きく、広い地域からの入学希望者がある。

児童生徒の運動課題として、基礎的な身体の動きを身につけること、体力づくり(筋力・持久力の向上、体幹強化、身体のバランス力を高める等)、肥満防止とたくさんあげることができる。日頃から運動する習慣や正確な身体の動きを身につけ、運動能力の向上へつなげていきたいと考えて取り組んだ。中学部では、昨年に引き続いて地域の駅伝大会と本校中学部全生徒で行う校内マラソン大会を目標に取り組んだ。

◆実施計画

- | | |
|---------|--|
| 1. 対象学部 | 中学部 |
| 2. 対象生徒 | AB グループ
21名(男子13名・女子8名) |
| 3. 生徒概要 | 運動が好きな生徒が多いが体力・筋力は全体的に低めである。
繰り返し説明することで理解できる生徒がいる。 |
| 4. 場所 | 阿南支援学校 体育館 |
| 5. 講師 | ピラティスアンドコンディショニングリライズ 吉成侑弥 氏 |

◆取組内容

実施時期	実施内容(活動内容)	対象
①11月6日(月) 10:40~11:20	①講師紹介 ②準備運動(ストレッチ) ③身体の使い方を意識した動き ・体幹トレーニング ・ミニハードル回転ジャンプ ・動物歩き ・走りながらコーンジャンプ	中学部 AB グループ 21名 (男子14名・女子7名)
②11月15日(水) 10:40~11:20	①はじめのあいさつ(講師紹介) ②準備運動(ストレッチ) ③身体の使い方を意識した動き ・体幹トレーニング ・しっぽ取り ・ぞうきんを使ったトレーニング 	中学部 AB グループ 21名 (男子13名・女子8名)

③11月22日(水) 10:40~11:20	①はじめのあいさつ(講師紹介) ②身体の使い方を意識した動き ・ミニハードル、ラダーでのフットワークトレーニング ・コーディネーショントレーニング(指示された色のコーンまで走ってタッチする) ③300m走(リレー形式) 	中学部 AB グループ 21名 (男子13名・女子8名)
-----------------------------------	---	---

◆活動の成果

【小学部】

ストレッチや身体の使い方を意識した運動を行った。ストレッチでは、どここの筋肉を伸ばしているか意識しながら取り組むことを学んだ。身体の使い方を意識した運動では、四つ這いを中心に行った。はじめは前や後ろに進むことが難しい児童もいたが、講師の指導を受け、徐々に前や後ろに進むことができるようになった。マット運動&ミニハードルジャンプでは、前転や後転、丸太転がりに取り組んだ後、すぐに起き上がりミニハードルジャンプをする活動に取り組んだ。はじめは、指示された動きに苦戦し、思うように身体を動かすことが難しい児童たちがいたが、直接身体の動かし方について指導を受けたり、講師の動きに注目したりして、意欲的に取り組んでいる姿が多く見られた。

今回の取り組みに参加して、普段の授業で行わないような活動を体験させることができ、今後の指導に生かす方法を身につけることができたと考えている。児童も普段とは違った講師との関わりや指導を受け、身体を動かすことの楽しさを実感することができたと感じている。また、授業内容や児童に伝える方法等、児童だけでなく教員にとっても有意義な時間となった。

【中学部】

中学部では、日常生活や体育の授業の様子を見て、身体を上手く使うことができずにいる生徒や体幹が弱くバランスが悪い生徒が多いことが分かった。そこでスポーツスキルアップ事業で専門的な指導をいただき、課題克服に繋がればと考えた。トレーナーの吉成先生は5年間継続して講師として来てくださったので、生徒たちの多くが吉成先生のことを知っており、リラックスして授業に取り組むことができた。

中学部の2回の授業では、ストレッチ等の準備運動、ラダーやミニハードルを使った足の運びや足首強化、体重移動(バランス感覚)、ランニングフォームの確認等を行った。腕の振りや足上げ、手と足と目の協応動作を意識した指導を多く取り入れてくださり、生徒たちも徐々に身体の動かし方を理解できるようになった。その一方で、身体の部位を思うように動かすことができず、活動の中で指示された動きに苦戦している生徒もいた。ボディイメージが持ちにくいことから、動かす部位を具体的に指示したり、実際に部位に触れて力の加減を伝えたりすることで、指示された身体の部位を動かすことができるようになりつつある。

1月に加茂谷駅伝が開催されることや中学部全員参加の校内マラソン大会を開催することを伝えると、大会で活躍することを目標に日々の練習や授業に取り組むことができている。トレーナーの吉成先生に教わったことや日頃からのランニングの積み重ねから、生徒一人一人が持っている力を十分に発揮し、達成感を感じることができると期待している。

◆今後の課題

【小学部】

今年度は、各クラスの運動することが得意・好きな児童を募っての参加となった。この体験を通して、参加した児童たちが自信を持って活動に取り組む姿が見られた。また、教員にとっても今回の体験を活かして普段の授業に取り入れていけるようにしたい。そのために、他の教員にトレーナーの吉成先生から指導していただいた内容を伝える場を設けたいと考える。

今年度も小学部は1回のみの実施であったので、参加人数に限りがあった。より多くの児童が参加できるよう、実態別のグループ分けを行い、このような活動の回数を増やしていく必要がある。そこで、事前に参加児童の実態を見てもらう機会を設けたり、綿密な打ち合わせを行ったりすることで更に実態に応じた活動内容を行うことができると考える。児童には、身体の動かし方を理解することで、体育の授業により意欲的に参加できることや、日常生活において、取り組める活動の幅が広がることを目指してほしいと思う。

【中学部】

中学部では、運動能力や身体機能を考慮して5グループに分かれて体育の授業を実施している。今年度も比較的運動能力や体力等が高い2グループの生徒を対象として行った。今回、外部講師から指導や助言をいただいたことを、中学部全体の持久力や筋力の保持増進と体力の向上に繋げていくために、参加できなかった生徒にも日頃の体力づくりや体育の授業で積極的に取り入れて指導していきたい。また、吉成先生の指導方法や指導内容を共有することができるような機会を設定したい。そうすることで、生徒に、より質の高い授業を多くの教員ができるようになり、生徒の運動に対する意欲も高まると考える。

また、今年度も新型コロナウイルス感染症対策のため、グループを分けて校内マラソン大会を開催したが、生徒がこれまで練習してきたことや、積み重ねてきたものを発揮する場面は継続して開催していきたいと考えている。そして運動する機会をますます増やし、駅伝大会やマラソン大会だけでなく、たくさんのスポーツに携わる機会を設けていきたい。生徒には、スポーツを通して、同年代の子どもや地域との交流を図ることを目指してほしいと思う。

5)池田支援学校

◆学校のプロフィール

池田支援学校は、三好市池田町東北部の山あい位置する、知的障がいの児童生徒を対象とした特別支援学校である。周辺には多くの福祉施設があり、地域一帯が『箸蔵福祉村』と呼ばれている。令和5年度は小学部 25名、中学部 24名、高等部 30 名、計 79名が在籍している。そのうち隣接する児童福祉施設(池田学園)から通学する児童生徒が 28名で約4割を占めている。近年は近隣の小・中学校の通常学級や特別支援学級から入学する児童生徒も増加傾向にある。

本校は小学部「生活する力」、中学部「協力する力」、高等部「貢献する力」を育てる教育活動の実践を目指し、地域交流を基盤に、地域とのつながりを密にした、地域に開かれた学校づくりのさらなる充実を推進している。

◆実施計画

- | | |
|---------|------------------------------|
| 1. 対象学部 | 中学部 |
| 2. 対象生徒 | A グループ 13 名(男子 10 名・女子3名) |
| 3. 生徒概要 | 体を動かすことが好きな生徒が多いが、基礎的な体力は低い。 |
| 4. 場所 | 池田支援学校 校内、グラウンド |
| 5. 講師 | 徳島県障がい者スポーツ協会 遠藤恭弘 |

◆取組内容

実施時期	実施内容(活動内容)	対象
①10月12(木) 10:40~11:20	①はじめのあいさつ ②講師紹介 ③準備運動(ストレッチ)	中学部 A グループ 13 名 (男子 10 名・

	④コーディネーショントレーニング(身体の使い方) ○ストレッチ ・肩甲骨 ・股関節 ○ラダートレーニング ・両足ジャンプ ・片足ジャンプ ○スキップ ○スクーターボードトレーニング 	女子3名)
②11月16日(木) 10:40~11:20	①はじめのあいさつ ②準備運動(ストレッチ) ③コーディネーショントレーニング(身体の使い方) ○ストレッチ ・肩甲骨 ・股関節 ○支持軸トレーニング ・サークルラン ・トライアングルステップ・ラン ・しっぽ取り ④おわりのあいさつ 	中学部 Aグループ 13名 (男子10名・ 女子3名)
11月30日(木) 10:40~11:20	①はじめのあいさつ ②準備運動 ③準備運動(ストレッチ) ④コーディネーショントレーニング(身体の使い方) ○四つ這い(前・横・後) ○ラダートレーニング ・両足ジャンプ ・片足ジャンプ ○スキップ ○スクーターボード トレーニング ⑤おわりのあいさつ 	中学部 Aグループ 13名 (男子10名・ 女子3名)

◆活動の成果

「動きやすい身体をつくる」「自分の身体を思い通りに動かせるようになる」ことを目的に、コーディネーショントレーニングのプログラムを遠藤先生に作っていただいた。7つあるコーディネーション能力のうち、連結能力、変換能力、反応能力、バランス能力の4つの能力を総合的に向上させるために、ストレッチ、ラダートレーニング、スクーターボードトレーニング、支持軸トレーニング(サークルラン・トライアングルラン・しっぽ取り)等に取り組んだ。特に支持軸トレーニングの「しっぽ取り」では「しんどいけど楽しかった」「おにごっこみたいで好き」などの感想が生徒たちから多く聞かれ、遊び感覚で意欲的に取り組むことができていた。

また、週3回の体育の授業で、ストレッチ、ラダートレーニング、スクーターボードトレーニングを継続的に取り組んだことにより、教員からは「授業中の姿勢が改善された」「集中力が少し高まった」などの声も聞かれた。今回の取組を通して、生徒たちの運動に対するモチベーションが全体的に向上し、ボッチャの大会にも参加してみようというチャレンジ精神の芽生えなども見られた。

◆今後の課題

本校、中学部では身体的機能や運動能力等の実態をもとに学習グループに分かれて体育の授業を実施しているが、学部全体のコーディネーション能力の向上に向けて、今後も遠藤先生から指導助言いただいたことを日頃の体育の授業や自立活動の時間等に積極的に取り入れて指導していきたい。また、遠藤先生の指導方法や指導内容を学部内で共有することができるような機会を設定し、多くの教員がスクーターボードトレーニング等の質の高い授業を実践できるようにも取り組んでいきたい。加えて、周辺地域の特性を活かし、運動を通じて地域に開かれた学校づくりを推進していきたい。

○特別支援学校での指導者派遣事業(地域施設の利用及び体験格差解消のための取組)

◆実施内容

B&G との連携を活かし、地域にある B&G の施設を利用し、学校の地域性や児童生徒の実態に応じた運動・スポーツ活動を実践し、特別支援学校在籍時から、スポーツに親しむ経験を積んだり、地域施設を利用したりすることにより、体験格差の解消や卒業後の継続したスポーツ活動に向けた裾野を広げていくことを目指して取り組む。

実施校	実施日	取組内容	回数
阿南支援学校ひわさ分校	R5 年 7 月 18 日	由岐 B&G のプールでの SUP やカヌーなどのマリンスポーツ体験活動	1回
みなと高等学園	R5 年 9 月 21 日	B&G 阿南うみてらす北の脇での BIGSUP やライフジャケット浮遊体験などのマリンスポーツ体験	1回
阿南支援学校	R5 年 10 月 12 日		1回
国府支援学校	R5 年 9 月 7 日～ 12 月 20 日	徳島 B&G 海洋センタープールでの水泳指導	7回

◆指導者

B&G スタッフ及び外部講師

◆活動の成果

障がいなどにより、自然体験活動への参加が困難な子どもたちの「体験格差解消」を目指している B&G との連携において、参加校の子どもたちが、水辺の安全教室や SUP やカヌーなどのマリンスポーツ体験を行った。体験会では、ライフジャケットの効果や水辺の安全ルールを学んだ他、水に浮く楽しさやカヌーや SUP を漕ぐ技術を身につけた。また、プール学習では、広く大きなプールで泳ぎ方を教わったり、ゲームしながら潜ることの楽しさを体験したりした。子ど

もたちの「初めて波や砂の感触を味わいました。」「はじめは上手にできなかったけど、だんだんとカヌーをこげるようになってうれしかった。」などの感想から、達成感や喜びを感じたことがわかった。活動に参加した教員も子どもたちの満足した姿を見て、これからも B&G との連携を深め、継続してこの活動を続けていきたいという声が聞かれた。



特別支援学校運動部活動等の地域連携推進事業

1 目的

特別支援学校運動部活動と、地域の障がい者スポーツクラブや競技団体、パラスポーツ指導員、総合型地域スポーツクラブ等との連携事業を実施することで、運動部活動地域移行に向けた基盤作りを行う。

2 取組内容

(1) 特別支援学校と地域の障がい者スポーツクラブ等の交流機会創出

対象競技の特別支援学校運動部活動に、競技団体等の外部指導者を派遣し、地域移行に向けた専門的な指導力の確保や外部指導者との関係構築を図る。

また、各特別支援学校の部活動や地域の障がい者クラブチーム、競技団体の指導者等が集う合同練習を定期的に実施し、活動を共にすることで、地域移行の受け皿として想定されている地域のクラブチームとの連携体制を構築する。

実施にあたり、特別支援学校在校生、特にボッチャ競技においては、移動が困難な肢体不自由の生徒も取り組んでいることから、オンラインを併用した指導者派遣や合同練習を実施する。

① バスケットボール

(株)がんばろう徳島、徳島県バスケットボール協会にご協力いただき、県内の特別支援学校でバスケットボール練習会を実施した。

また、バスケットボール部のある3校(国府支援学校、板野支援学校、池田支援学校美馬分校)合同の練習会を実施し、日頃、交流の少ない他校の生徒ともバスケットボールを通して交流を深めることができる機会を創出した。

本事業を通じ、県内初となるプロバスケットボールチーム徳島ガンバローズの関係会社である(株)がんばろう徳島をはじめとする、競技団体の指導者や地域のプロチームとの新たな関係構築に繋がった。

◆実施計画

回数	日程	会場	人数	指導者
第1回	8月28日	吉野川市フネンアリーナ	40名	遠藤 恭弘(合同練習会)
第2回	9月25日	国府支援学校	9名	阿部 博文
第3回	10月4日	国府支援学校	9名	黒山さおり
第4回	10月17日	池田支援学校美馬分校	7名	三好 利典
第5回	11月1日	国府支援学校	9名	黒山さおり
第6回	11月9日	国府支援学校	9名	阿部 博文
第7回	11月20日	国府支援学校	9名	若松 直樹、根東 裕隆
第8回	11月27日	国府支援学校	9名	若松 直樹、根東 裕隆
第9回	1月19日	とくぎんトモニアリーナ	48名	阿部 博文、三好 利典 若松 直樹、根東 裕隆

◆協力団体

- ・徳島県バスケットボール協会
- ・(株)がんばろう徳島

◆3校合同練習会



◆徳島ガンバロウズオルトによる競技指導



◆徳島県バスケットボール協会による競技指導



◆感想

<指導者>

- ・一般スポーツの競技団体の中にパラスポーツの指導経験者が少ない。

<参加者>

- ・プロの指導を受けられて楽しかった。
- ・間近でレベルの高いプレイを見られて良かった。

◆課題

競技団体やプロスポーツ選手等にパラスポーツ指導者養成講習会の受講を促し、パラスポーツの理解を促進する必要がある。

②ボッチャ

徳島県ボッチャ協会にご協力いただき、肢体不自由の学校を中心に、各学校においてボッチャの練習会を実施した。

また、県内の特別支援学校が集う「合同練習会」を開催し、試合形式での練習や、移動が難しい生徒も参加することができるオンライン形式の「ターゲットボッチャ」を活用した練習を実施した。合同練習会は各学校で実施した練習会の成果を披露する場となり、専門的な指導を受けた生徒達による白熱した試合展開も見られた。

1月のオンライン練習会には、香川県、愛媛県、高知県の県外特別支援学校からも参加があり、県内外を通じた学校間の交流機会となった。また、実技の難しい生徒にも、仲間を応援する楽しさや、スポーツを観戦する楽しさを経験していただけるよう、合同練習会の様子は各学校へオンライン配信を行った。

◆実施計画

回数	日程	会場	人数	指導者
第1回	10月23日	板野支援学校	40名	秋田 景旨
第2回	11月17日	鴨島支援学校	5名	吉野 哲一
第3回	11月24日	鴨島支援学校	5名	吉野 哲一

第4回	11月29日	フネアリーナ合同練習会	81名	吉野 哲一 他3名
第5回	11月29日	オンラインボッチャ合同練習会	39名	村上 民男
第6回	12月1日	鴨島支援学校	5名	吉野 哲一
第7回	12月11日	板野支援学校	22名	吉野 哲一
第8回	12月18日	板野支援学校	22名	吉野 哲一
第9回	1月17日	オンラインボッチャ合同練習会	61名	特別支援学校教員
第10回	1月19日	とくぎんトモニアリーナ	26名	吉野 哲一、秋田 景旨

◆協力団体

- ・徳島県ボッチャ協会
- ・徳島障がい者スポーツ指導者協議会

◆徳島県ボッチャ協会による競技指導



◆オンラインによる対戦



◆合同練習会



◆感想

<指導者>

- ・生徒が一生懸命に競技に取り組む姿勢に感動した。
- ・中には非常にレベルの高い選手もいて、指導を継続していきたいと感じた。
- ・県内外での大会に生徒たちが今後参加できるような活動につながった。

<参加者>

・合同練習会では、他校の生徒と試合形式で練習を共にすることができたので、楽しかった。

◆課題

これらの活動を通じ、ボッチャ競技の裾野を広げることができたが、全国障害者スポーツ大会へのボッチャ競技の選手派遣ができていないため、競技者の拡大と指導者の拡充に取り組む必要がある。

③陸上

日本パラ陸上競技選手権の出場経験をもつパラアスリートによる陸上競技の指導を、特別支援学校の生徒や県内のパラスポーツ指導者を対象に実施した。

◆開催概要

日 程:令和6年2月23日

指導者:田中 司(たなか つかさ)先生

陸上、柔道(視覚障がい)。徳島県出身。三井住友海上 四国東支店所属。

2022年 愛知パラ陸上競技フェスティバル 優勝(やり投げ)

北海道・東北パラ陸上競技大会 優勝(円盤投げ)

第33回日本パラ陸上競技選手権大会 優勝(円盤投げ)

2023年 全日本視覚障害者柔道 5位

神下 豊夢(かみした とむ)先生

陸上(砲丸投げ・円盤投げ・やり投げ)。大阪府出身。三井住友海上関西損害サポート部。

2022年 第33回日本パラ陸上競技選手権大会

ジャパンパラ陸上 2位(円盤投げ・砲丸投げ)

2024年 第34回日本パラ陸上競技選手権大会

2024年 ジャパンパラ陸上 優勝(円盤投げ・砲丸投げ)

内 容:ストレッチ、ジャベリックボールを活用した指導

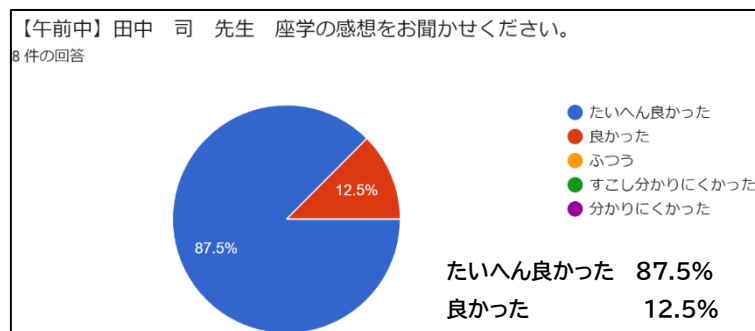
◆指導者コメント

障がいがあってもスポーツを続けたいという希望をあきらめず、パラリンピック出場の夢に向けて努力している。選手は助けてもらって当たり前と考えるのではなく、常に感謝の気持ちを持ってほしい。

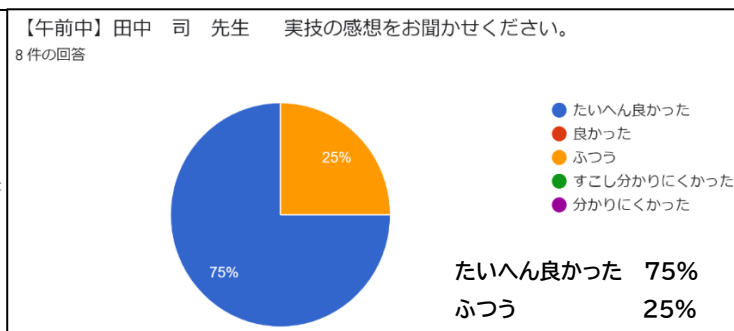


◆参加者アンケート

Q1 午前中-田中司先生の座学の感想をお聞かせください。



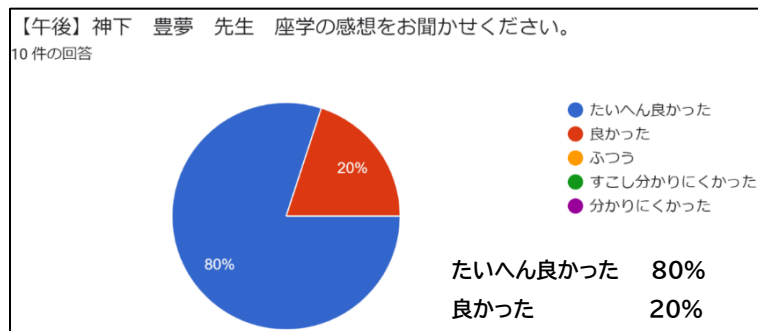
Q2 午前中-田中司先生の実技の感想をお聞かせください



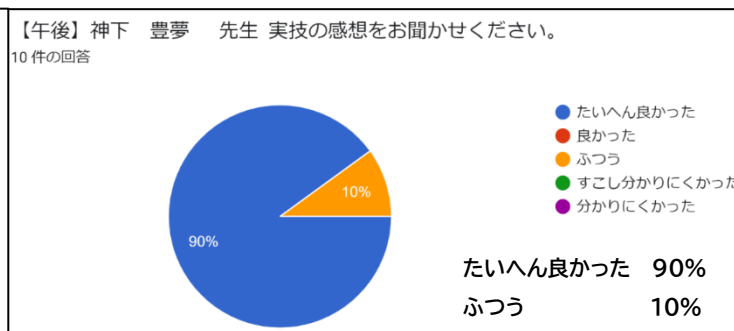
Q3 午前中-田中司先生の講義、実技どのようなことが良かったか、分かりにくかったかご記入ください。

- ・出会いの大切さ、人のありがたさを感じておられるところ(人としての成熟度が高い)。
- ・大きな国際大会にはメダルに点字があるとの話(点字は万国共通なのかな?)。
- ・まず体操/ストレッチをしてから実技に入ったこと。
- ・神下さんの方が詳しいと思うところは、彼に話を振っていたこと。
- ・ご自身が障がいを持たれても諦めずにこれまで競技を行ってきた経過を教えてください、実技ではやり投げの投げ方のコツを教えてくださいためになることばかりでした。
- ・障がいがあってもスポーツを続けることを諦めなかった。競技を続けるには周囲の支援が欠かせない。「常に感謝、ありがとう」という気持ちを忘れない、選手の皆さんにも持ってほしいということが伝わった。
- ・実体験を元に話してくれた為とてもわかりやすかったです。

Q4 午後-神下豊夢の座学の感想をお聞かせください。



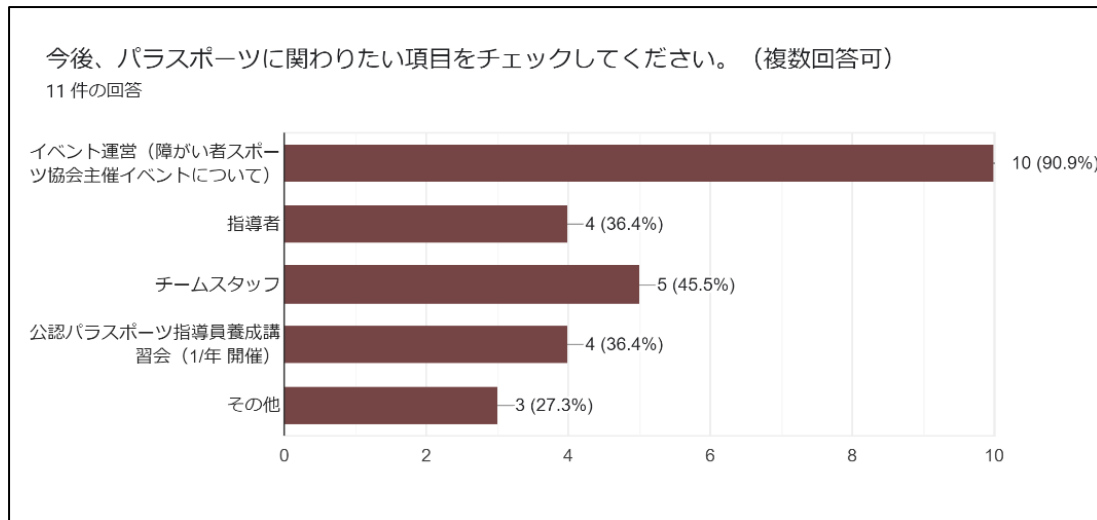
Q5 午後-神下豊夢の実技の感想をお聞かせください



Q6 午後 神下 豊夢 先生 講義、実技どのようなことが良かったか、分かりにくかったかご記入ください。

- ・動画もつけてわかりやすく説明していただいたので、とても勉強になりました。
- ・足を臀部に引き付ける速さ、足を振り出す速さ、腿をお腹の方に引き付ける速さが走る速さに関係しないことを初めて知ることができてよかった。
- ・起きたこと(事故)は仕方がないと過去を振り返らないこと(言い切っておられたのがすごいです)。
- ・もも上げがスピードに貢献しないと話したこと(驚きでした)。
- ・投げ方、指の掛け方などの細かい説明。
- ・自分自身、理学療法士の勉強を大学で行っていて、授業で習ったことをスポーツに特化した形で講義して下さったので大変興味深かったです。また、実技では、リレーという形で他の参加者の方とふれあうことができたので良かったです。
- ・歩行のことを詳しく話して頂いてとても興味が出ました。

Q7 今後、パラスポーツに関わりたい項目をチェックしてください。



Q8 ご意見・ご要望がありましたらお気軽にご記入ください。

- ・企画ありがとうございます。時間の許す限り、参加させて頂いて、知識や人脈を広げたいと思います。
- ・パラスポーツ選手が自身の体験談などの講演が、選手・指導者ともに勉強になり、応援になると思います。
- ・今回のように高校の監督さんに陸上競技部員と一緒にスキルアップの向上につなげるために参加するということはとても大切なことだと思います。リレーを2チームで競ったことはこれからの目標になり人とのつながりを形成するためにはとてもよいトレーニングだとも思います。特にノーマピック県大会は毎年応援にかけつけています。これからもお願いします。

(2)「総合型地域スポーツクラブ」との連携

運動部活動地域移行の受入先として期待されている「総合型地域スポーツクラブ」において、パラスポーツ等の指導者を派遣し、近隣の特別支援学校、特別支援学級、社会福祉施設（障がい児（者）施設、放課後等デイサービス事業所等）が参加できる練習会を開催することで、障がいのある児童生徒の放課後の運動機会の創出や、総合型クラブにおける特別支援学校運動部活動等の受入環境の整備を図った。

放課後等デイサービスでは、場所や職員数の都合等から、日頃スポーツのできる環境が少ない現状があるため、職員や利用者からも好評いただいており、広い体育館に集まった児童はいきいきとスポーツに取り組む様子が見られた。また、事業所単位で参加することで、個人での参加が難しい児童のスポーツ参加機会創出に繋がっている。

◆実施計画

回数	日程	実施施設	参加者数
第1回	10月17日	藍住町民体育館	50名
第2回	10月22日	あなぶきスポーツクラブ	13名
第3回	11月25日	おえっこスポーツクラブ	362名
第4回	1月27日	おえっこスポーツクラブ	31名
第5回	2月24日	おえっこスポーツクラブ	30名

◆協力団体

- ・放課後等デイサービスいつもここから
- ・放課後等デイサービスオレンジノート
- ・放課後等デイサービスイノセント
- ・放課後等デイサービス スカイ

◆練習会の様子



◆感想

<利用者>

- ・放課後等デイサービスの障がい児は送迎の時間の調整が必要であるため長時間は難しい。
- ・普段は狭い施設で過ごしているため、広い体育館で伸び伸びとスポーツを楽しむことができ大変ありがたい。

<受入施設>

- ・回数を重ねることでコミュニケーションも図ることができ、受け入れることには問題はなく、対象者を制限して開催することは今後も可能であるが、対象者を拡大するにはスタッフの配置を拡充する必要がある。
- ・地域の方とつながることができるので、ありがたい。

◆課題

総合型地域スポーツクラブは月会費を支払い、定期的に参加する仕組みになっているため、会費の支払が難しい児童や、定期的に参加することができない児童に対する新たなプログラムを実施することは難しいとの意見があった。対応が難しい総合型クラブについては、実施方法を検討する必要がある。

(3)障がい者施設のトレーニングスペースを活用した練習拠点の充実

徳島県障がい者スポーツ協会の運営法人である(福)徳島県社会福祉事業団の施設「障害者支援施設希望の郷」に設置されたトレーニングスペースを、特別支援学校運動部活動の生徒や地域の障がい者等向けに定期的に開放し、運動部活動の練習拠点としての受入体制の整備を図る。

◆実施計画

回数	日程	参加者数	備考
第1回	10月10日	2名	
第2回	10月19日	13名	
第3回	11月20日	21名	
第4回	11月27日	4名	
第5回	2月27日	6名	知的サッカーチーム

◆感想

<指導者>

- ・定期的に実施することで、体力の維持、増進につながるため、継続して活用したい。
- ・体力づくりの拠点ができたのは非常に良かった。

<参加者>

- ・スポーツジムには通えないので、器具を使って運動できて楽しかった。

◆課題

- ・地域に繋げることができなかったので、今後は、利用を促進し、パラスポーツの普及にもつなげたい。
- ・車いすの方に利用困難な器具があるため、利用環境をさらに整備する必要がある。



サッカー競技を核とした運動部活動地域移行モデル創出事業

1 目的

昨年度のスポーツ庁の委託事業により、関係団体の協力を得て、福祉、教育、競技団体等である実行委員会を設置し、特別支援学校サッカー部の活動を充実させることにより特別支援学校の生徒を軸とした、徳島県で初めての「知的障がい者サッカーチーム」を発足することができた。対象地域においては部活動同様の活動から、地域での活動、また、レベルに合わせ挑戦できる機会も設け、自尊心を高めることにも繋がる活動を実施することができたところである。また、スポーツ少年団ともサッカーを通じた交流を図り、障がいの有無にかかわらずスポーツを楽しむことのできる環境を提供することができた。

そこで、今年度は更に対象地域と対象者を拡大し、誰も取りこぼすことなくサッカーを楽しめる機会を促進する活動を進めるため、昨年度の活動を更にブラッシュアップし、県南部、県西部でもサッカーの練習会の開催と、誰もが生涯サッカーのできる環境整備を進める。

2 取組内容

(1)特別支援学校サッカー部サテライト事業

昨年度の事業を通じ、県央部の練習会にも県南部から参加する生徒があり、スポーツの機会を期待する生徒がいることが把握できた。そこで、これまでの活動に加え、県南部、県西部でも練習会を実施し、県内全ての特別支援学校生徒が放課後や休日にサッカーのできる環境を整備する。

また、地域の学校とも練習試合等を実施しサッカーで交流を図り、インクルーシブな環境を整える。

①県央部

回数	日程	会場	参加者数	備考
第1回	6月14日	県立国府支援学校	17名	
第2回	6月18日	県立国府支援学校	18名	
第3回	6月24・25日	山口県セミナーパーク	8名	徳島県代表選手
第4回	6月28日	県立障がい者交流プラザ体育館	16名	
第5回	7月5日	県立障がい者交流プラザ体育館	16名	
第6回	7月12日	県立障がい者交流プラザ体育館	15名	
第7回	7月16日	徳島市運動広場サッカー場	17名	
第8回	7月23日	徳島市運動広場サッカー場	16名	
第9回	8月2日	県立障がい者交流プラザ体育館	16名	
第10回	8月9日	県立障がい者交流プラザ体育館	15名	
第12回	8月20日	徳島市運動広場サッカー場	16名	
第13回	8月26日	徳島市運動広場サッカー場	16名	
第14回	9月3日	県立障がい者交流プラザ体育館	16名	
第15回	9月11日	県立障がい者交流プラザ体育館	16名	
第16回	9月16日	神戸市しあわせの村	15名	
第17回	9月24日	県立障がい者交流プラザ体育館	16名	
第18回	10月1日	徳島市運動広場サッカー場	16名	
第19回	10月9日	徳島市運動広場サッカー場	18名	
第20回	10月14日	ビバ・スポルティア SAIJO	8名	徳島県代表選手
第21回	10月15日	ビバ・スポルティア SAIJO	17名	四国リーグ
第22回	10月21日	徳島市北岸運動広場	12名	
第23回	10月28日	徳島市運動広場サッカー場	15名	

第24回	11月3日	県立障がい者交流プラザ体育館	22名	
第25回	11月8日	徳島市北岸運動広場	13名	
第26回	11月18日	徳島市運動広場サッカー場		雨天中止
第27回	11月25日	県立障がい者交流プラザ体育館	12名	
第28回	12月6日	県立障がい者交流プラザ体育館	14名	
第29回	12月13日	県立障がい者交流プラザ体育館	14名	
第30回	12月20日	徳島市北岸運動広場	15名	
第31回	1月10日	県立障がい者交流プラザ体育館	16名	
第32回	1月17日	県立障がい者交流プラザ体育館	15名	
第33回	1月28日	県立障がい者交流プラザ体育館	16名	
第34回	2月7日	県立障がい者交流プラザ体育館	15名	
第35回	2月18日	県立障がい者交流プラザ体育館	22名	
第36回	2月24・25日	大阪体育大学	7名	
第37回	3月3日	徳島市北岸運動広場	25名	



②県西部

近隣の放課後等デイサービスの利用者や特別支援学級の生徒が参加し、徳島ヴォルティススクールコーチによる指導で、楽しくサッカーを体験いただいた。

回数	日程	会場	参加者数	備考
第1回	7月15日	池田支援学校美馬分校	40名	特別支援学校、学級、放課後等デイサービスイノセント
第2回	8月27日	池田支援学校美馬分校	15名	特別支援学校、学級、放課後等デイサービスイノセント
第3回	9月9日	池田支援学校美馬分校	30名	特別支援学校、学級、放課後等デイサービスイノセント
第4回	12月16日	池田支援学校美馬分校	22名	特別支援学校、学級、放課後等デイサービスイノセント
第5回	1月27日	池田支援学校美馬分校	20名	特別支援学校、学級、放課後等デイサービスイノセント
第6回	2月17日	池田支援学校美馬分校	21名	特別支援学校、学級、放課後等デイサービスイノセント、放課後等デイサービス スカイ



③県南部

みなと高等学園は放課後、阿南支援学校、阿南支援学校ひわさ分校は授業で実施いただいた。

回数	日程	会場	参加者数	備考
第1回	9月15日	みなと高等学園	8名	
第2回	9月22日	みなと高等学園	6名	
第3回	11月9日	阿南支援学校ひわさ分校	10名	
第4回	11月15日	阿南支援学校ひわさ分校	8名	
第5回	11月16日	阿南支援学校ひわさ分校	8名	
第6回	11月20日	阿南支援学校ひわさ分校	8名	
第7回	11月30日	阿南支援学校ひわさ分校	8名	
第8回	1月10日	阿南支援学校	20名	中学部
第9回	1月17日	阿南支援学校	20名	中学部
第10回	1月24日	阿南支援学校	20名	中学部
第12回	1月29日午前	阿南支援学校	20名	中学部
第13回	1月29日午後	阿南支援学校	20名	高等部
第14回	1月31日	阿南支援学校	20名	中学部



◆感想

<指導者>

- ・生徒の成長が著しく、スポーツだけでなく、成長を感じる。
- ・技術も向上し、今後も目標を持って取り組める環境にしたい。

<参加者>

- ・だんだん上手になってきたので、楽しかった。
- ・試合をたくさんしたい。

◆課題

- ・練習会の実施は定着し、参加者の体力、技術力も上がり、それぞれが目標を持って参加することができるが、事業終了後に、同様の回数を実施することができるか調整が必要である。

(2)ピアサポートサッカー交流事業

障がい種別にかかわらず、サッカーを通じた交流を行うことで、学校卒業後の居場所を増やし、ピアの交流を深めるとともに、スポーツ活動を促進することを目的に実施。

ソーシャルフットボールチームとの合同練習や、特別支援学校サッカー部の練習会に指導サポートとして精神障がいの選手に参加いただく機会を通じて、相互交流を行っている。特別支援学校生徒の中にも、精神障がい者の手帳保持者や精神疾患の診断を受けた生徒もあり、精神障がい者の選手と交流することで、卒業後もスムーズにサッカーに繋がる体制を構築することができ、学生のうちにかかわりを持つことで切れ目なくスポーツを続けることが期待できる。

回数	日程	会場	参加者数
第1回	6月17日	県立障がい者交流プラザ体育館	10名
第2回	7月1日	県立障がい者交流プラザ体育館	12名
第3回	9月30日	県立西部防災館	50名
第4回	10月7日	とくぎんトモアリーナ	45名
第5回	11月3日	吉野川市民フネンプラザ	30名
第6回	11月4日	県立障がい者交流プラザ体育館	11名
第7回	11月23日	県立障がい者交流プラザ体育館	8名
第8回	12月2日	県立障がい者交流プラザ体育館	11名
第9回	12月23日	うだつアリーナ	23名
第10回	1月13日	県立障がい者交流プラザ体育館	10名
第11回	1月20日	県立西部防災館	25名
第12回	2月3日	県立障がい者交流プラザ体育館	8名
第13回	2月10日	うだつアリーナ	26名
第14回	2月23日	徳島スポーツビレッジ	60名
第15回	3月2日	障がい者交流センター体育館	10名



◆感想

<指導者>

- ・特別支援学校の生徒が成長しており、精神障がい者選手の励みにもつながっている。

<参加者>

- ・レベル高い練習ができるので楽しい。
- ・卒業後もサッカーができる場所ができてうれしい。

◆課題

- ・特別支援学校サッカー部サテライト事業参加者よりも参加者が少ないため、ピアサポートサッカー交流事業の対象者も特別支援学校サッカー部サテライト事業に参加できるよう、日程・会場を調整し、障がい種別にかかわらず常にだれもが参加できる環境整備が必要。

令和5年度スポーツ庁委託事業
「障害者スポーツ推進プロジェクト」
(特別支援学校等における運動部活動の地域連携・地域移行支援事業)

令和6年3月 発行

発行 徳島県未来創生文化部ダイバーシティ推進課